平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川 4 市長との意見交換会
議事概要

日時：令和元年 5 月 20 日（月）10：00～11：00

場所：国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所会議室

【市長から出された主なご意見】

- ダムの事前放流及び事前のダム容量の確保について、各機関が検討し対応方針が示されたことに感謝している。
- 昨年のような災害が起こらないとは限らないため、適切な情報把握等を行い対応して頂きたいと考えている。
- 事前放流の運用に向けて、どのような経路で情報が伝達され住民に周知するか、訓練が必要ではないかと考えている。
- 本日晒された事前放流について、住民に広く周知・説明していく必要があると考えている。各機関から支援いただきたい。
- 堤防の改修、河道掘削等についても、情報交換を行いながら連携して対応していきたいと考えている。
- 昨年の豪雨災害により、河床が上昇している箇所もあるため、ダムの放流シミュレーションは現況の結果と違いが出てくるのではと考えている。
- ダム放流の影響が下流の河川水位にどのような影響があるか、市側が（住民への避難情報を的確に発令できるよう）把握できるようにしてほしい。また、住民にもわかりやすいような広報の仕方についても検討頂きたい。
- 気象予測精度の向上や河川整備の進捗もあることから、今後も効果的な手法について検討を継続してほしい。
- このような機会を継続的に実施していき、意見交換を行っていただきたい。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 各機関から説明した内容は、現時点でできうるものである。今後も改善が必要と考えており、整備により状況も変化することから、丁寧に説明していく必要があると考えている。
- 現在策定を進めている多機関連携タイムラインは「いつ」、「だれが」、「何を」を纏め上げるものである。これを作り上げ、運用し、訓練等に活用することが重要と考えている。
- ダムからの放流による下流での水位変化は、今後の河床掘削等による河道状況を踏まえた評価が必要と考えている。

- 国土交通省では、ダム放流も含めた洪水の予測システムを構築中である。高梁川を試行的に開発しており、準備が整い次第運用を開始したいと考えている。
- 新成羽川ダムの事前放流について、理解を得られたということで感謝している。住民への説明も協力していきたいと考えている。
- 河本ダムの事前放流について、本格的な出水期が来るまでに効果的な検討を実施していきたい。
- 小阪部川ダムは、限界水位まで事前に水位を下げるという試行運用を行うが、本出水期の運用を踏まえ改善の余地があれば今後も検討していきたい。
- 事前放流に関する住民への説明は、それぞれ自治体の要望に応じた形で実施させていただく。
- 今後とも、4市長及び河川・ダム管理者で意見交換をしていながら取り組みを改善していきたいと考えている。